

1 教科について

国語

昨年度の課題

文章の展開に即して登場人物の心情を的確に捉えることに課題がある。(通過率48.6%)
 説明的文章における段落相互の関係を的確に読みとり、その段落の働きを理解することに課題がある。(通過率48.6%)
 文章の内容や表現の仕方を捉え、自分の考えを明確に説明することに課題がある。(通過率42.3%)

昨年度の課題を受けて具体的に取組んだ事項

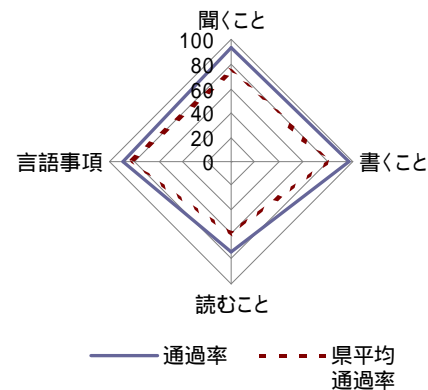
叙述に即して心情などを正しくとらえさせるために、場面の様子や人物の気持ちを表す部分に線を引いたり、主語を意識して読んだりする学習活動を仕組む。

様々な形態の文章の構成や展開、表現の特徴を分析的に捉え、その工夫や効果について自分の考えを持たせる場面を設定する。

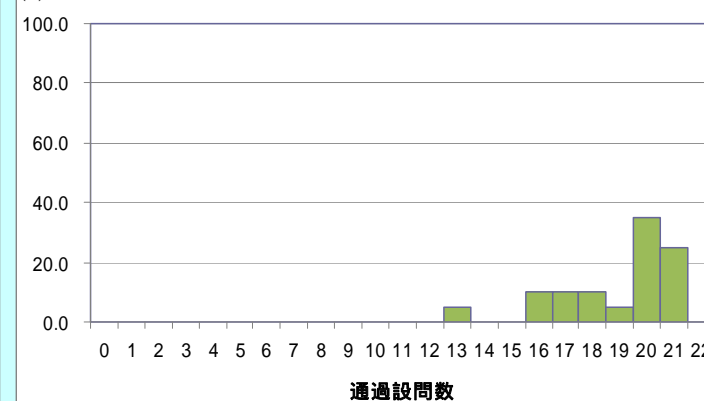
文章の表現に着目した学習活動を取り入れるなど、表現の仕方や内容を取り上げ、考えたことを交流したり、考えを深めたり、着目した表現を参考にしたりする活動を取り入れる。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 86.1% 県平均 73.2%

領域別平均通過率(国語)



通過設問数ごとの生徒割合(国語)



成果 : 「基礎・基本」定着状況調査

段落相互の関係を読み取ることは昨年度より41.4%上昇した。(今年度90%)

書くことの領域においては、全ての設問で90%以上の通過率を達成することができた。

各項目の数値については別紙を参照して下さい。

重点課題 : 「基礎・基本」定着状況調査

- 文学的文章において、文脈を適切に読み取ることに課題がある。(今年度 30%)
- 文章の展開に即して、登場人物の心情を的確に把握することに課題がある。(今年度 50%)
- 説明的文章において、文章の展開の仕方について構造的に理解することに課題がある。(今年度 65%)

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

文章に登場する指示語や副詞句に着目し、線を引いて前後の文とのつながりを意識させたり、語句の意味や前後の文とのつながりについて説明させたりしていく。

昨年同様、叙述に即して、登場人物の心情を正しくとらえさせるために、場面の様子や人物の気持ちを表す部分に線を引いたり、主語を意識して読む学習を継続して行い、読み取った内容について書いたり、話したりさせていく。

文章全体を構造的に捉えるような学習展開を仕組み、起承転結や三段論法など、どのように文章が展開しているかを読み取り、説明させる活動を設定する。

来年度の目標値

すべての問題において、通過率を50%以上とする。
 全領域において、平均通過率を80%以上にする。

中学校学力向上対策事業研究指定校 指導方法等の改善計画

数 学

昨年度の課題

比例の関係にあるものについて判別することに課題がある。
 (通過率 54.3%)
 円錐と円柱の体積の関係についての理解について不十分である。
 (通過率 51.4%)
 言葉で示された図形の性質や条件について記号を用いて表すことに課題がある。

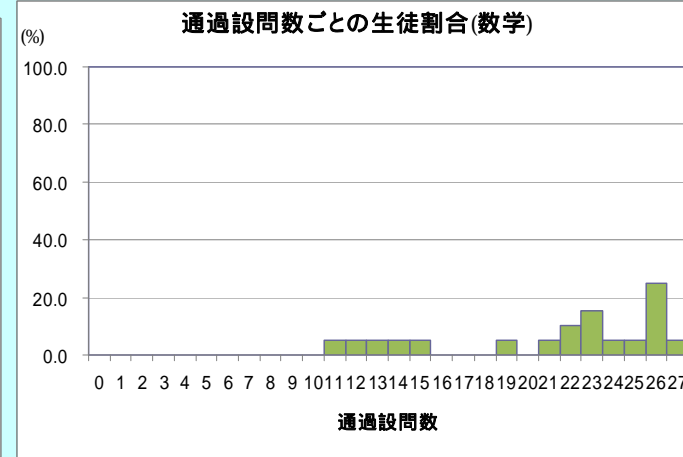
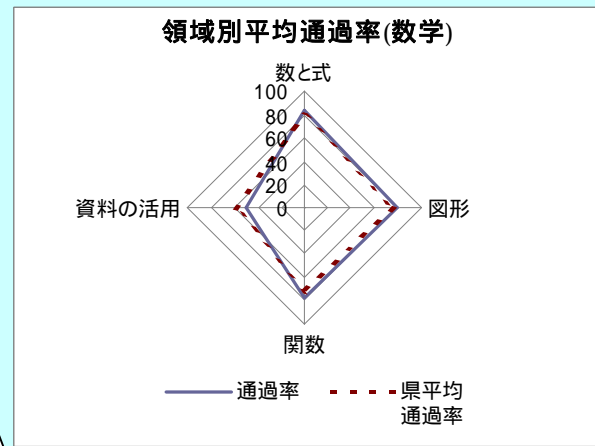
昨年度の課題を受けて具体的に取組んだ事項

2つの数量の変化や対応を調べることを通して、比例と反比例の違いを把握させる。また、グラフの描き方・座標の取り方を再度確認させる。

錐体の体積は、柱体の体積の $\frac{1}{3}$ になることを体験的に、また、視覚的に指導していく。

図形の指導において、記号で表された事柄の読みとりや、垂直や平行・ねじれの位置の関係を理解できるように様々な活動を通して仕組んでいく。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 78.5 % 県平均 74.7%



成果 : 「基礎・基本」定着状況調査

比例の関係である文章を判別することができた。(昨年度比 + 15.7%)

1次方程式の計算, 線対象
100%正解

各項目の数値については別紙を参照して下さい。

重点課題 : 「基礎・基本」定着状況調査

角柱と角錐, 円柱と円錐といった体積の関係を正しく理解していない。
(今年度 40%)

資料の活用能力が低く, 度数分布表の見方や相対度数での表し方に課題がある。
(今年度 10%)

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

体積の公式を実験や推測をしながらしっかりと考えさせていき, 身の回りの物体の体積を計算し, プリントで反復させる。

度数分布表の意味や理解 相対度数はどのようなときに用いるのかをしっかりと教え, グループ活動で, 日常的な事柄を例に出して考えさせていくことで, 資料の活用能力の向上につなげていく。

来年度の目標値

設問ごとの通過率60%を上回る。
 個々の生徒の通過率50%以下を0にする。

中学校学力向上対策事業研究指定校 指導方法等の改善計画

英語

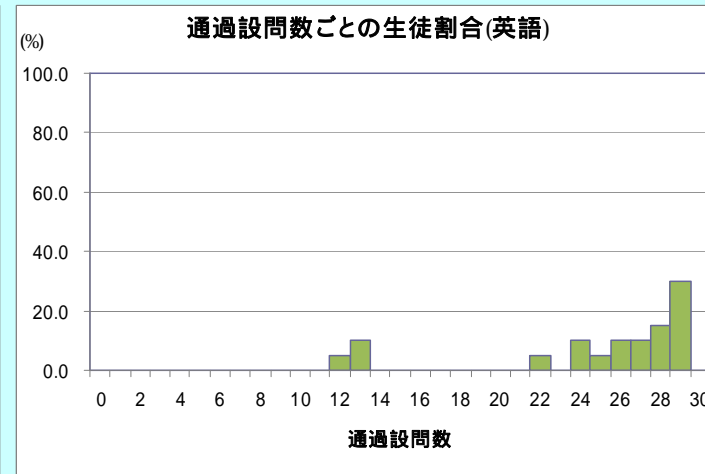
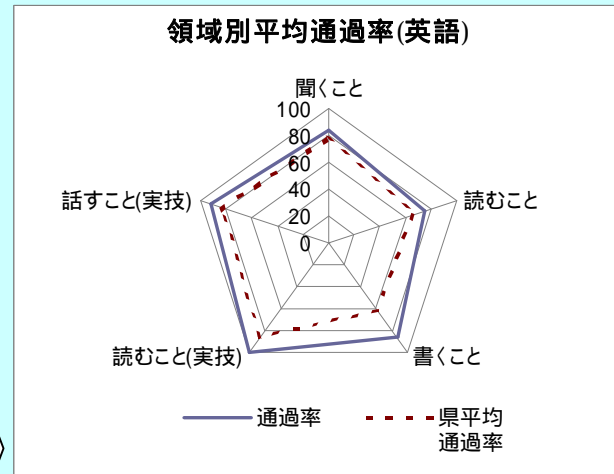
昨年度の課題

リスニング問題で、特に 13 と 30 の発音をきちんと聞き分ける力に課題がある。(通過率 54.3%)
 主語が3人称複数で、一般動詞現在形を用いた文の疑問文をつくる際には、助動詞 do を用いることが理解されていない。(通過率 54.3%)
 一般動詞の過去形の文を作るには、動詞の語尾に ed をつけることを理解していない。(通過率 57.1%)

昨年度の課題を受けて具体的に取組んだ事項

A L T と協力して、授業の中で、英問英答を実施した。時間をたずねる質問は、必ず行い、きちんと英語で答えさせた。13 と 30, 14 と 40, 15 と 50 の発音の区別できない生徒がいた場合、その場で練習させ、全体にも指導を行い、発音、アクセントに注意させて全体練習を行った。
 be 動詞を使った文の疑問文と一般動詞を使った文の疑問文の違いについて、何度も繰り返し説明した。また、違いを意識付けるためにワークシートを使ってドリル学習を行い、what などの疑問詞を用いた疑問文の作り方とその答え方のパターン練習を実施した。
 過去形の文に慣れるため、ワークシートに英語で日記を書かせて提出させ、添削指導や個別指導を行った。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 82.8% 県平均 71.9%



成果 : 「基礎・基本」定着状況調査

「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能のバランスを考慮し、多様なコミュニケーション活動を通して、書く力を育成する活動を取り入れたことにより書くことの通過率が向上した。(昨年度 73.9% 今年度 85.7%)
 昨年度の重点課題であった問題の通過率は、すべて向上した。

各項目の数値については別紙を参照して下さい。

重点課題 : 「基礎・基本」定着状況調査

- リスニング問題の内容を聞き取り、その中でも特に曜日 をきちんと聞き分ける力に課題がある。(今年度 50.0%)
- 代名詞の働きや用法の理解が不十分なため、文と文とのつながりをつかめなかったり、文章の意味をとらえることができていない。(今年度 50.0%)
- 文法の理解が不十分なため、現在進行形の文や主語が3人称複数で一般動詞現在形を用いた疑問文では助動詞 do を使うなど、適切な語を用いた会話文の組み立てに課題がある。(今年度 55.0%)

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- 毎日の授業の中で、A L T や C D のネイティブの声をしっかり聞かせて英語の音に耳を慣れさせると共に、繰り返し発音練習をさせて英語の音や意味を身につける取り組みを行う。
- 代名詞は、必ずすぐ前の文の名詞などを指し、それが人物なら he か she、物であるなら it を指すということを理解させると共に、そのことを考えながら英文を読ませるといった指導の徹底と代名詞を実際に使った対話文を作らせる。
- 主語の人称に合わせた一般動詞の疑問文を作るパターンと「～している」という状況を表す現在進行形「be 動詞 + 動詞 ing」というパターンを、ドリル学習などの反復練習によってしっかり身につけさせる。

来年度の目標値

- 全ての領域において通過率を 80% 以上にする。
- 通過率 50% 未満の生徒の割合を 1 割以下にする。

2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査，生徒質問紙調査）

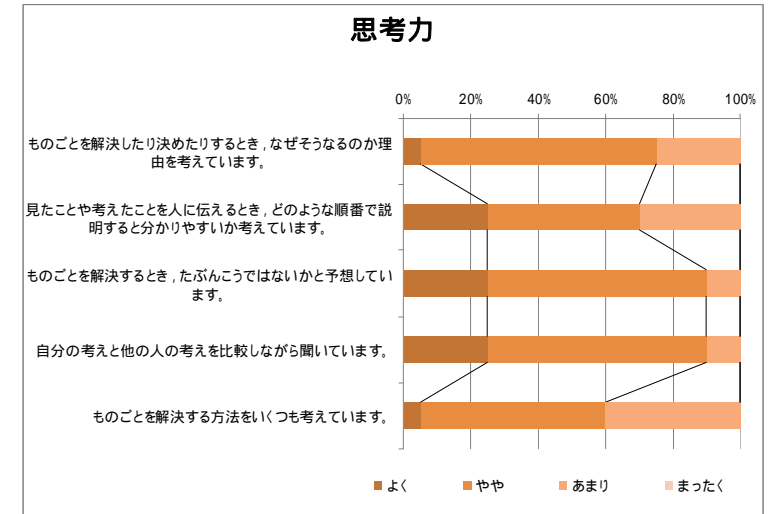
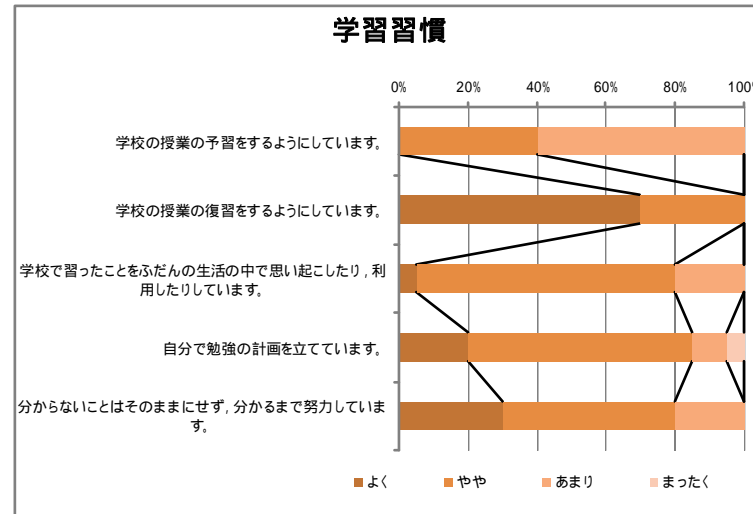
(1) 生活・学習

昨年度の課題

自己効力感は高いが，受容感が低下している。
 （まわりから認められている60% 昨年度比
 - 9.2%）
 家庭学習において，計画的に復習に取り組んで
 いるが，授業の予習をする生徒が少ない。
 （予習をする生徒31.4%）

昨年度の課題を受けて 具体的に取組んだ事項

校内研修会において，生徒一人ひとりが自分
 の考えを表現する力を高めるため，言語活動
 を活かした指導方法の研究を行い，検証の視
 点を明確にした授業研究を全教職員が行う。
 「家庭学習のすすめ」を活用して，生徒に予
 習の仕方など学び方を指導し，「継続ノート」
 を利用して，予習を中心とした自主学習の習
 慣づくりを行う。



取組の成果（「基礎・基本」）

学習習慣に関わる項目については，昨年度より予習（+8.6%），復習（+14.3%）する生徒が増加し，学習時間が1時間より少ない生徒が減少した（-6.4%）。なお，自己実現力・自己効力感については，昨年度より自己効力感（+18.6%），受容感（+15.0%）ともに向上した。

改善したい点（「基礎・基本」）

ものごとを解決する方法をいくつも考えているなど，他者との関わりにおいて必要となる思考力が低下している。（昨年度比 - 17.1%）また，学習習慣については，本年度成果を上げたが，継続課題として来年度もさらなる家庭学習の充実を目指して取り組んでいく。

今後の具体的な取組の内容

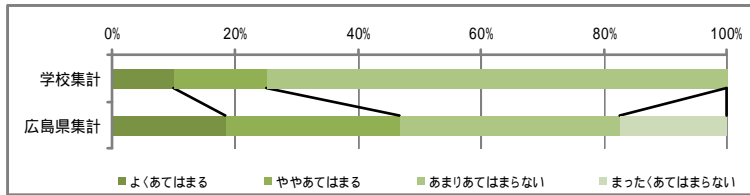
- 各教科の授業場面においては，多様な考え方ができるような発問を設定するなど，思考力を高める場面を設定するとともに，学校における諸活動の中で，コミュニケーション能力を高める活動を多く仕組んでいく。
- 「家庭学習のすすめ」と「継続ノート」の利用の仕方を工夫して，家庭学習の充実，学習時間の定時化を図っていく。

来年度の目標値

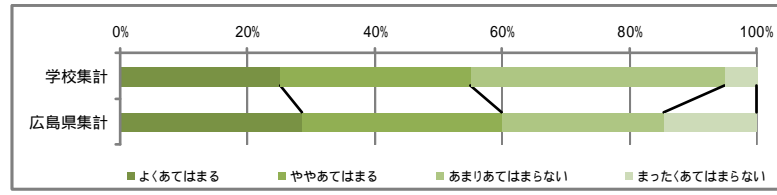
・質問項目のすべてにおいて，肯定的な意見を65%以上にする。

(2) 教科(「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙の教科の学習において、特に課題と考えられる項目のグラフを下に載せています。)

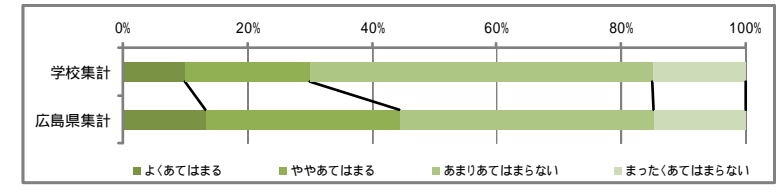
国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています。



数学の勉強は好きです。



英語の授業では、話が長くようにつなぎ言葉などを用いて話しています。



以上の課題について、昨年度の取組、本年度の課題、課題に対する取組を以下の表にまとめています。

| | 取組の成果 (「基礎・基本」) | 生徒の回答と学校の指導についての課題 (「基礎・基本」) | 授業改善の方向性や具体的な取組 |
|----|--|---|--|
| 国語 | 登場人物の心情を適切に把握させていくために、ポイントとなる表現に線を引きながら読む活動を続けてきたが、この項目において、大きく数値が上昇している。 (昨年度 48.6% 今年度 90.0%) | 「わからない言葉や漢字は辞書を引いて調べる」という項目において、肯定的な回答をしている生徒の数値が減少しており、わからない語句について自ら進んで調べようとする姿勢に課題がある。 (昨年度 40.0% 今年度 25.0%) | ・読むことの指導において、作品を通読する際にわからない語句や漢字に線を引き、その語句を調べる学習活動を設定するなどして、辞書を活用する場面を増やしていく。また、授業の中で漢字や語句を取り上げる場面を設定し、語彙を増やすことの楽しさを学ばせていく。 |
| 数学 | 「数学の授業では、考え方や解き方を比べ～」や「数学の授業では、わかっていることや～」の内容が85%であり、大半の生徒は、前向きな姿勢で取り組んでいる。 | 「数学の授業を楽しみにしています」「数学の勉強は好きです」という項目において肯定的な回答の割合が減少している。(昨年比 - 25%、- 27.9%) その原因は、「関係式への表し方」や「考えや解き方の説明」の質問事項において、生徒自らが説明し、理解させていくことが難しく、苦手意識を持っているためだと考えられる。特に、発表すること、言葉で相手に伝えることの苦手意識が強い。 | ・授業の中で、ペア学習を取り入れ、お互いに聞き合える場を作っていく。その中で、教え合いや間違いの指摘ができ、発表に自信を持たせていく。また、そうしていくことで、日常生活で役に立つ場を増やしていき、興味や関心をさらに持たせていく。 |
| 英語 | 「英語の授業では、ペアやグループなどで活動を行うことが好きです。」という生徒の割合が増えており、(77.1% 90.0%) 授業の中に、ペアワークやグループワークを取り入れた成果がでた。 英語のチームとして、それぞれが授業改善を行ってきたことにより「英語の授業はよくわかります。」という肯定的な捉えが大きく向上した。(80.0% 95.0%) | 「英語の授業では、話が長くようにつなぎ言葉などを用いて話しています。」の肯定的な回答の割合が30.0%、「英語の授業では、知らない表現が出てきた場合、以前に習った他の表現を使って話しています。」の肯定的な回答の割合が45.0%で積極的に話そうとする態度に課題がある。 「英語の授業では、分からない単語や熟語は、辞書を使って調べています。」についても、肯定的な回答の割合が35.0%と低く、自分で調べて学習を行う姿勢に課題がある。 | ・生活場面に即した表現活動を行わせる。その際にも、ペアワークやグループワークを積極的に取り入れ、しっかりコミュニケーションさせて、互いの表現に学び合わせる。また、指導者が、積極的に英語を使うことを楽しみ、生徒がよく知っている絵や写真を用いて、英語を話すことによって興味・関心を持たせ、生徒にも、意欲的に相手に分かりやすい、つながりのある文で、事実や自分の考え、気持ちを表現させるようにする。 その中で、辞書を使う場面を増やしていき、辞書を使って、語彙を増やしていく楽しさを学ばせる。 |

来年度の目標値

・すべての質問項目に対して、肯定的な意見を70%以上にする。

指導改善のための実施スケジュール

| | | ~ 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | |
|------|---------|---|----|-----|-----|-------|----|----|--------|------------------------------------|-----------------|
| | | Plan | Do | | | Check | | 検証 | Action | Check | |
| | | | | | | | | | | | |
| 【教科】 | 国語 | 文章の展開を意識し，全体の構造に着目した読み方をさせていく。 場面設定を確認したり，主語を意識しながら作品を読む指導を継続していく。 漢字や語句に着目し，線を引いたり，調べたりする学習活動を設定していく。 | | | | | | | | CRT 実力テスト 定期テスト などの実施 | 検証の検証と年間指導計画の改善 |
| | 数学 | 復習プリント（繰り返し学習），既習事項と関連付けた指導を行い，覚えさせていく。 問題解決的な課題を設定し，ペアやグループ活動を取り入れ，話し合いの場をつくる。 説明など表現する場を設定し，評価を行う。 | | | | | | | | | |
| | 英語 | ALTと協力し，英語のイントネーションや正しい発音を意識した音読練習を徹底して行う。 ワークシートを使って，英文パターンのドリル学習を取り入れ，繰り返し学習指導を行う。 ペアワークやグループワークを積極的に取り入れ，しっかりコミュニケーションをさせて，適切な評価を実施する。 | | | | | | | | | |
| | 【生活・学習】 | 思考力を高めるために，生徒の多様な考え方を引き出すような発問を設定し，授業を構成していく。 「家庭学習のすすめ」を利用して，生徒の予習の仕方を継続的に指導していく。 「継続ノート」を活用し，家庭学習の充実や，学習時間の定時化を図っていく。 | | | | | | | | | |

別紙

国語

| 領域 | 通過率 | 県平均通過率 |
|------|------|--------|
| 聞くこと | 92.5 | 75.7 |
| 書くこと | 97.5 | 79.5 |
| 読むこと | 73.6 | 59.1 |
| 言語事項 | 89.4 | 80.9 |

数学

| 領域 | 通過率 | 県平均通過率 |
|-------|------|--------|
| 数と式 | 82.9 | 77.1 |
| 図形 | 78.6 | 75.5 |
| 関数 | 77.5 | 72.2 |
| 資料の活用 | 50.0 | 60.2 |

英語

| 領域 | 通過率 | 県平均通過率 |
|----------|-------|--------|
| 聞くこと | 83.3 | 78.2 |
| 読むこと | 74.4 | 66.7 |
| 書くこと | 85.7 | 62.4 |
| 読むこと(実技) | 100.0 | 86.5 |
| 話すこと(実技) | 93.0 | 83.1 |

